

# 経営比較分析表

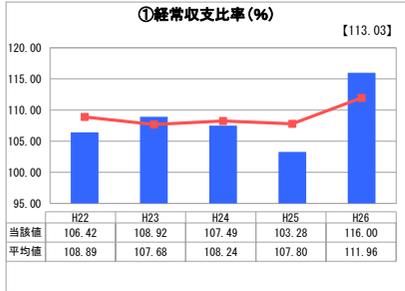
岡山県 笠岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	92.22	98.59	4,190

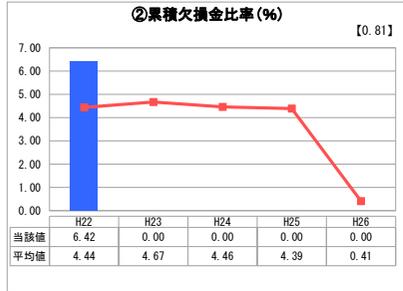
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
51,907	136.39	380.58
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
50,897	136.39	373.17

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

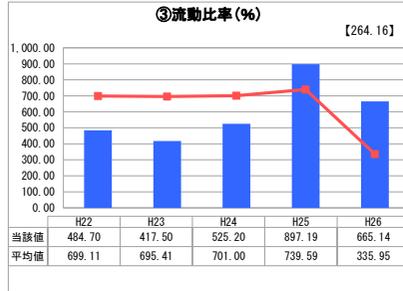
## 1. 経営の健全性・効率性



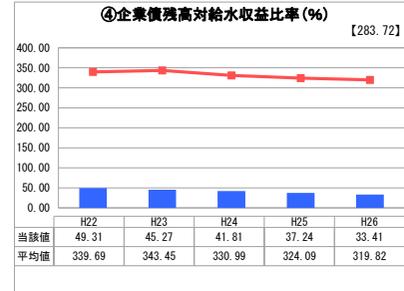
「経常損益」



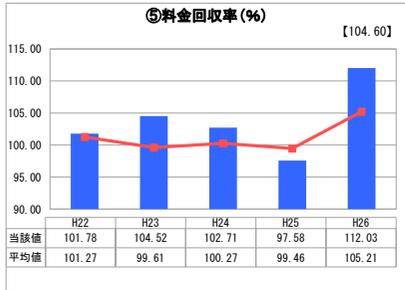
「累積欠損」



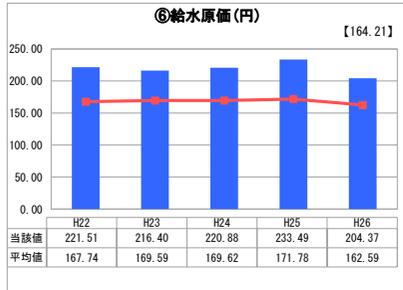
「支払能力」



「債務残高」



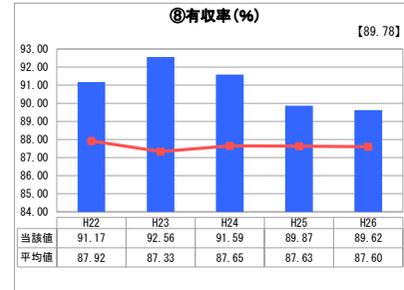
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

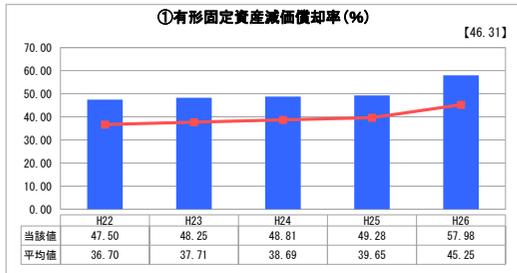


「施設の効率性」

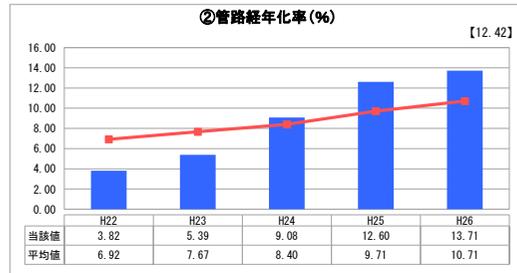


「供給した配水量の効率性」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」  
100%を上回っており、健全な経営状態となっています。平成26年度は、会計制度の改正による影響で大きく増加しています。

「累積欠損比率」  
平成23年度に累積欠損金が解消され、それ以降0%となっています。

「流動比率」  
100%を上回っており、健全な状態が続いています。平成25年度は、未払金が少なかったため、増加しています。

「企業債残高対給水収益比率」  
類似団体平均値を大きく下回っており、企業債の償還が進んでいる状況です。

「料金回収率」  
平成25年度は100%を下回りましたが、平成26年度は会計制度の改正による影響で大きく増加しています。

「給水原価」  
本市では、水源が遠く、また、島しょ部を含む市内全域に配水するため、多くの費用が必要ですが、有収水量が低迷しているため、類似団体平均値を上回る水準となっています。

「施設利用率」  
類似団体平均値を下回っており、給水人口の減少等の影響でさらに減少傾向にあります。

「有収率」  
類似団体平均値を上回っていますが、近年、漏水事故の発生により、減少傾向にあります。

### 2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」  
類似団体平均値を上回っており、施設の老朽化が進んでいる状況です。平成26年度は、会計制度の改正による影響で増加しています。

「管路経年化率」  
過去に集中して整備した管路が法定耐用年数を迎えたため、ここ数年で急増し、類似団体平均値を上回る状況になっています。

「管路更新率」  
平成24年度以降は、類似団体平均値並みとなっています。平成22年度、平成23年度は、配水地の耐震化工事を優先して進めたため、管路更新率は低くなっています。

## 全体総括

健全な経営状態を維持していますが、その一方で、施設の老朽化が進んでいる状況です。特に、耐用年数を超えた管路がここ数年で急増し、有収率は減少傾向にあります。

そこで、管路の更新を急がなければなりません。海底下水管を含む500km弱の管路を保有する本市では、管路の更新には莫大な費用が必要となります。

そのため、管路を含む施設の更新は、計画的・効率的に実施しなければなりませんので、平成28年度に中長期の施設の更新計画を立て、施設の更新に取り組みます。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。